

(西暦) 2017 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

子ども立ち会い出産の選択に関連する要因の検討

学位の種類: 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 15894603

氏名: 巖千晶

(指導教員名: 安達久美子 教授)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

目的: 子ども立ち会い出産の先行研究では、子どものことを主に研究しているものが多いが、母親や父親を対象とした研究は少ない。加えて、母親や父親がどのように考え、子ども立ち会い出産を選択しているかということは明らかにされていない。本研究は、母親や家族の背景及び子ども立ち会い出産に関する考え方と子ども立ち会い出産の選択との関連を明らかにすることを目的とする。

方法: 子ども立ち会い出産を行っている首都圏にある許可の得られた 13 施設を受診している、妊娠 28 週以降の妊婦 320 人を対象に、子ども立ち会い出産選択に関する自記式質問紙を用いて調査を行った。子ども立ち会い出産の選択を従属変数とし、子ども立ち会い出産選択に関する考えの 33 項目を独立変数として単変量解析を行い、有意である 15 項目を共変量として、多重ロジスティック回帰分析を実施した。

結果: 質問紙の回収は 320 部 (回収率 91.2%) であったが、そのうち有効回答数 302 部 (有効回答率 94.4%) を分析対象とした。子ども立ち会い出産をするかどうかを考えたことがある人は 228 人 (75.5%)、考えたことがない人は 74 人 (24.5%) であった。考えたことがある人の中で、子ども立ち会い出産をすると選択した人は 110 人 (48.2%)、まだ迷っている人は 84 人 (36.8%)、子ども立ち会い出産をしないと選択した人は 34 人 (14.9%) であった。子ども立ち会い選択群と子ども立ち会いをしないと選択した群を対象として分析した結果、上子が出産の場にいると「自分が安心できる」「上子に命の大切さを教えることができる」の 2 項目について思う場合には、子ども立ち会い出産を選択する可能性が高かった。「上子の年齢」「上子がいることを納得できない」「上子の恐怖体験になる」の 3 項目について思う場合には、子ども立ち会い出産を選択する可能性が低かった。

考察: 子ども立ち会い出産を選択する母親たちは、立ち会い出産の上子への効果や成長の部分重要視し、立ち会い出産をすることに際しての心配や不安が少ないことがわかった。母親たちの上子への効果や成長を期待する気持ちを支持し、心配や不安を抱えている人には、正しい情報を提供し、共に考えていくことが必要である。また、母親たちが立ち会い出産に関してどのように考えているかを把握し、子ども立ち会い出産のメリット・デメリットの情報を提供し、いつでも相談に乗れる環境を作り、納得した選択ができるようにそばに寄り添い、家族が安心して出産に望める場を提供することが重要である。